

# バイリンガル・マルチリンガル 子どもネット (BMCN) – 2017年度大会開催に向けて

中島和子

2017年8月20日

10:05-10:20

国際基督教大学ダイアログハウス

©kazuko.nakajima2017

# 会の目的

- 日本国内また海外在住の日本語を含む複数言語環境で育つ子ども (BM児)が、グローバル時代に必要なマルチリンガル・バイリンガル人材に育つように、BM児の言語発達全体を支えること。
- マイノリティ言語を第一言語・母語とする 4 歳から8 歳ぐらいまでのBM児の言語発達に特に留意すること。
- 社会的また心理的なさまざまな要因によって、BM児の言語発達のバランスが失われ、一時的にどの言語も年齢相応のレベルに達しない「リミテッド状況」に陥ることがある。この実態について、識者の協力を得ながら、認識を深めるとともに、その指導のあり方に貢献する実証的な研究を奨励・推進すること。

# 会の活動

1. 「バイリンガル・マルチリンガル（BM）子どもネット（「BM子どもネット」）の大会を定期的に開催して、学習の場を設けて会員相互の意見交換を行なう。
2. 「BM子どもネット」の概要をまとめて学術誌に発表する。昨年度第一回学習会は、『教育研究』（国際基督教大学） Vol. 59（2016） pp. 220-226 に掲載された。
3. BM児に日頃接する外国人および日本人保護者、看護師、保育士、教師、指導員、ボランティアの一時的リミテッド状況に対する認識を高め、マイノリティ言語児童の母語が現地語とともに、いかに大事かを訴えるパンフレットの発行など、啓蒙活動を行なう。  
**ポスター2参照**  
[啓蒙用パンフレットの例]

# 会の活動

4. 政府および地方自治体の、バイリンガル・マルチリンガル育成に対する革新的な政策の実現に向けて、支援団体と行政との間の緊密な連携の取り方について研究、および実践活動を行なう。

**ポスター1** 参照

[支援団体と行政との連携]

5. 「リミテッド状況相談室」の開設

ポータルサイト「ハーモニカ」

<http://harmonica-cld/double-limited>

相談室会を2016年10月から7回開催、6ケースの相談を受けた。

**ポスター 3** 参照

[日本人保護者対象の**質問票**の開発]

# 会の組織

- **理事** 9名 中島和子(トロント大学, BMCN子どもネット発起人代表)・石井恵理子(東京女子大学)・桶谷仁美(東ミシガン大学)・櫻井千穂(同志社大学)・島田かおる(啓明学園初等学校・特別支援教育士)・鈴木庸子(国際基督教大学教育研究所)・高橋悦子(日本ペルー共生協会副会長)・平塚淑江(アースプラザ外国人教育相談)・真嶋潤子(大阪大学)
- **リミテッド状況相談室相談員** 7名 平塚淑江(アースプラザ外国人教育相談, 相談室まとめ役)・奥村安寿子(国立精神・神経医療研究センター)・島田かおる(啓明学園初等学校・特別支援教育士)・高橋悦子(大和市教育委員会外国人児童生徒教育相談/日本ペルー共生協会副会長)・田中ネリダ(四谷ゆいクリニック)・平塚淑江(アースプラザ外国人教育相談)・山下一枝(啓明学園・国際教育学部アドバイザー)・李原翔(玉川大学・アースプラザ外国人教育相談)
- **アドバイザー** 1名 松井智子(学芸大学)

# 今年の大会プログラムとその背景

- (1) 「特別支援教育におけるアセスメント」 高橋登(大阪教育大学)
- (2) 「バイリンガル・マルチリンガル発達障害児とアセスメント」  
松井智子(東京学芸大学)
- (3) 「WISCその他—現場で必要なアセスメントツール」  
奥村安寿子(国立精神・神経医療研究センター・島田かおる  
(啓明学園))
- (4) 「DLAで分かるつまづく子どもの実態」櫻井千穂(同志社大学)

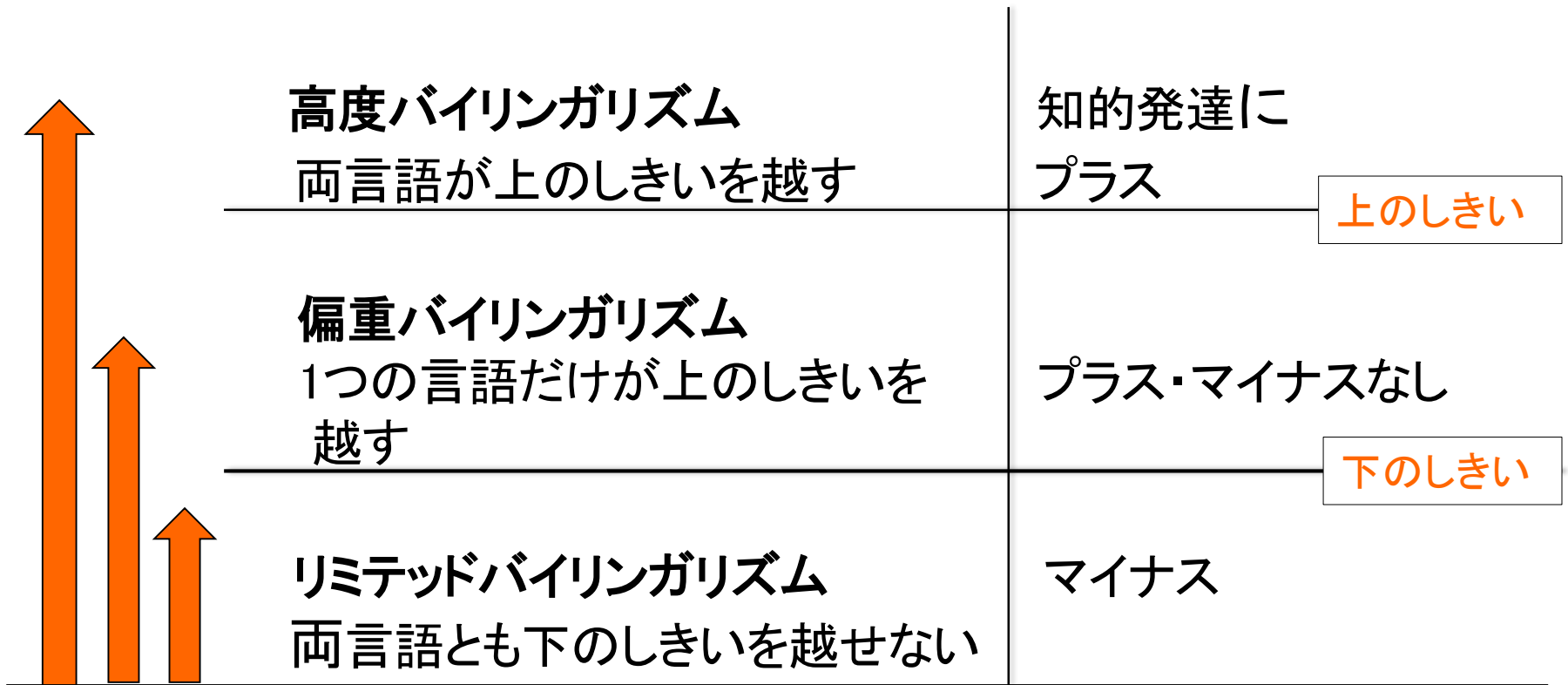
Dailogic Language Assessment (DLA)は, ポスター4 を参照  
「外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメント **DLA** とは?  
—入門編—」

# 用語の説明 一時的リミテッド状況

- リミテッド状況とは、複数の言語を獲得する過程でどの言語も年齢相応のレベルに達しない一時的な状況を意味する (Cummins,1979)。いずれも一時的状況であって環境が変われば解消する健常児の問題である。
- 一時的リミテッド状況と機能的な障害とを見分けるのは極めて困難であり, 専門家の力が必要な領域である。

# しきい説

Threshold Hypothesis (Cummins, 1979)





# どんな兆候があるか

- 1) 話し始めるのが遅い
- 2) 親にも通じないコトバを話す
- 3) 文字を覚えるのが遅い
- 4) 教師の言語による指示に従えない
- 5) 質問に対してピントの合った答えができない
- 6) 教師の与えた指示をおうむ返しにする
- 7) ことばで表現が十分できない
- 8) 教わったことをすぐ忘れる
- 9) 人の話を聞いていないように見える
- 10) 会話が成立しない(一方的にしゃべる, 場をコントロールしたがる)
- 11) 全くしゃべらない, 特定の場所ではしゃべらない
- 12) 学校で日本語(L2)の習得が通常より遅い
- 13) 聴く力と読みの力の差が大きい
- 14) 言語を使う科目の成績がほかの科目と比べて極端に悪い
- 15) 漢字や計算は出来ても,文章の読解や文章表現が極端に苦手

# 年齢によって異なる「リミテッド状況」

幼児期・小学校低学年 言語発達上の問題が中心

- 2.3歳児 「話し始めるのが遅い」「親にも通じないコトバを話す」
- 4.5歳児 「文字に興味を持たない」「文字習得のレディネスを欠く」
- 小学校1・2年 「文字を覚えるのが遅い」
- 小学校3・4年 「読み書きの基礎が弱い」「授業参加が難しい」

小学校5/6年年から中高生 両言語とも流暢に話す、抽象語彙が伸び悩み、読解力や作文力が伸びない。'Semi-literate'とも言われる。

- 「抽象的な思考が不得手」
- 「話し言葉から書き言葉への移行が困難」

# 環境によって異なる「リミテッド状況」

母語が主要言語の子どもの場合 (例:カナダのフレンチイマージョン)

- 2言語使用から1言語使用に切り替えることが可能
- 切り替えても解決にはつながらないことが多い (Genesee, 2007)

母語が少数言語の子どもの場合

① 原住マイノリティ言語の場合

(例:カナダの先住民やオンタリオ州のフランス語コミュニティ)

① 親が移住者や外国生まれの場合 (例:国内の外国人児童生徒)

- マイノリティグループが置かれてきた社会的・歴史的・文化的環境に要因があり、学校のあり方など環境要因の改善が必要 (Cummins, 1989)
- 学習障害との見分けが難しいが、(a)文字・文法ルールの習得において顕著な遅れが両言語に見られる場合、(b)聴解力に対して読解力が極端に弱い場合 (Geva, 2000)

# リミテッド状況への 相談室における対処の仕方

- コトバの躰きは 両言語に現れるため、言語能力を**両言語**で調べる必要がある
- 保護者と現場の教師の**気付き**を大切にして、早期発見につなげること
- BMCN子どもネット相談室の役割は、医師やスクールサイコロジストなどの専門家に 「つなぐ」 こと、また 「つなぐ」 必要があるかどうかを判断すること

# これからの課題

## 課題Ⅰ 幼児期から小学校低学年のマイノリティ言語児童の場合

- 第一言語(母語・継承語)の重要性についての認識
  - 理論的背景(2言語基底共有説・言語資源論・人権論)
  - 家庭で親にできること
  - 現地の学校ができること・教師にできること
  - 支援団体ができること
  - 国や地域の行政ができること
- リミテッド状況にあると判断された子どもへの指導のあり方

## 課題Ⅱ 小学校高学年から中・高のマイノリティ言語児童の場合

- 現地語モノリンガルの現地語力をどう高めるか
- 母語・母文化につながるアイデンティティの獲得

## 参考資料

- 田中ネリ 2017.「複数言語で育つ子どもとその保護者のバイリンガル心理相談から見えるもの—発達障害か—一時的リミテッドか:現状と課題」子どもの日本語教育研究会第2回大会(2017年3月11日)発表資料
- BMCN子どもネット「リミテッド状況相談室」2017.「日本人保護者対象質問票」
- Cummins, J. 1979. Linguistic interdependence and the educational development of bilingual children. *Review of Educational Research*. 49, 222-251.
- Cummins, J. 1984. *Bilingualism and Special Education: Issues in Assessment and Pedagogy*. Clevedon, UK: Multilingual Matters.
- Cummins, J. 1989. A theoretical framework for bilingual special education. *Exceptional Children*. 56(2). 111-119.
- Genesee, F. 2007. French Immersion and At-Risk: A Review of Research Evidence. *The Canadian Modern Language Review*. 63(5). 655-687.
- Geva, E. 2000. Issues in the Assessment of Reading Disabilities in L2 Children-Beliefs and Research Evidence. *Dyslexia*, 6. 13-28.
- Kalan, A. 2016. *Who's Afraid of Multilingual Education? Conversations with Tove Skutnabb-Kangas, Jim Cummins, Ajit Mohnty and Stephen Bahry about the Iranian Context and Beyond* (PDF EPUB). Multilingual Matters.
- Skutnabb-Kangas, T. and Dunbar, R. 2010. Indigenous Children's Education as Linguistic Genocide and a Crime Against Humanity? A Global View. *Journal of Indigenous Peoples Rights*. No. 1.